

10号は時を超えたか

— 酒と共に探検部の本質に限りなく近づいた日 —

日時； 昭和58年10月7日 午後7時～9時

場所； 新橋飯店

出席者；	初代	竹本靖秀	25代	井上友義
	14代	藤本幸一	25代	大日方昭
	15代	杉江栄	26代	清水達之
	21代	安川晶浩	27代	並木創一
	24代	幸徳伸一	28代	庄山あかね
			28代	小倉博房

進行； 25代 織田晃敏

～アンケート～

座談会のテーマが「過去に行なわれた探検活動を振り返り、我々の進むべき方向を探ろう。」という斬新なものに決まったとき、先輩方との歓談を、少しでも現実味のある充実した内容にしようという意図のもと、現役部員21名に簡単なアンケートを実施しました。つまり、現役部員の探検に対する何らかの傾向を把握したうえで、将来の話に持っていきなかつたわけですが……結果は如何に…???

実施期間：昭和58年9月30日～10月4日

I 関大探検部活動ベスト5とそれを選んだ理由

- 北米10000Kmカヌー縦断…………… 65
- 青海洞窟群調査…………… 59
- アマゾナス踏査…………… 51
- コロラド川航行…………… 17
- 黒部川上の廊下・下の廊下航行…………… 13

※(得点計算方法)

上位から順に5点・4点・3点……と配点し、

それぞれの活動ごとに得た点数を合計しました。

その他、ペルーアンデス学術調査、アラスカ合宿、沖縄学術調査など、関大探検部の名を世間に知らしめたすばらしい活動が続きますが、今回、特に上記5つの活動を現役が選んだ理由は、どの活動も、それぞれの分野でその時代の学生探検の先端をゆく活動であったこと、また、スケールの大きさ、発想のユニークさ、執着心の強さに魅かれたということでした。

II 世界的観点から、探検活動と呼ぶのにふさわしいと思う活動ベスト5

- エベレスト初登頂…………… 29
- 南極点到達…………… 24
- 月探検…………… 24
- マゼラン世界一周…………… 19
- 堀江謙一・太平洋ヨット横断…………… 13

※得点計算方法はIと同じ。

その他では、トロイ遺跡発掘、アフガニスタン潜入、シルクロード開拓、朝鮮海峡カヌー横断などが続きますが、各個人によって知識差が大きく、日頃の勉強不足？と言えそうです。

Ⅲ 探検家ベスト3

- 植村直己…………… 19
- アムンゼン…………… 13
- リビングストン…………… 10

※ (得点計算方法)

上位から順に3点・2点・1点と配点し、それぞれの人名ごとに得た点数を合計しました。

その他、コロンブス・ヒラリー・堀江謙一・マゼラン・ヘディン・ヘイルダール等、世界的に著名な人物が続きますが、中には、宮本武蔵という回答もあり、個人差が目立ちました。

Ⅳ 時間・費用に関係なくやってみたいと思うでかいこと。

- アメリカ・カナダなどの外国探検部に乗り込み、クラブ単位による探検感の交流。
- 探検部員全員の総力を決集した総合探検。地域—中国—アメリカ・中南米など。
- アトランティス大陸発見・学術調査。
- パプア・ニューギニア洞窟群完全調査、及び民族調査。
- ヤル=ツアンボの川下り、及び民族、考古学調査。

以上がアンケートの結果ですが、探検感という千差万別のものに何らかの傾向・統一制を見出すには、アンケートの質問内容に、突込みが少なすぎたようです。上記の結果だけを見て、探検部員でありながら自分の探検がない、考え方が画一化していると判断することはできません。そこまで分析するには、先輩方から指摘されたように、もっと充実したアンケートを行う必要があります。さて、アンケートから駒は出て来るでしょうか。座談会は何処へ……。



司会 本日は、御忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。踏査9号のときは、関大探検部の組織の変遷についての話が多かったようですが、今回は、過去に行なわれた具体的な探検活動をもとに話を進め、僕らの行動の指標を探ってみたいと思います。まず、先日、現役部員に行ないましたアンケートの結果についてどのように思われましたか？。

幸徳 これだけやったら意味が少ないと思う。もっと突込みがほしい。これの第2段、第3段をやって、以前のアンケートの結果がこうやったけれども、という感じで……。これやったら自分の直感だけで選んでいるし、結果的にも、ほんまに表面的なものやね。

藤本 10年ほど前に僕らが現役やった頃と違う意味の探検・探検家を皆が考えているのかなという期待を持ってたんやけど、結局あまりかわってないね。

井上 僕もアンケートを答えた1人なんですけど、結果を見たときに、誰もが知っている答しか出てこなかったのは寂しかった。それぞれの個性というか、普通では探検と思えない行為でも、自分ではこれが探検やという行為が出てこなかったのは残念だった。クラブにいる以上、自分の探検を築いてほしい。

司会 確かに、アンケートのやり方に多少まずい面があったと思います。ところで、最近の話題の中から、我々を感動させ、共鳴させるような行動をあげるとしたらどんなのがありますか？。

藤本 僕が現役時代にやった活動に密接な関係があるけど、僕らがアマゾンから帰った年に、関野吉晴という人から、アマゾンに入って民族調査をするには、どちらから入ったらよいかという相談を受けた。そして、彼は、僕らがブラジル側から入るより、ペルー側から入る方がええと単純に言



ったことを守ってやりよった。それから10年間、1人でその活動に取り組んできている。未だ1人でやっているということに対して、非常に敬服するというか、僕らができないことをやっているなという印象を受けた。

大日方 やっぱり執着心がすごいと思います。僕らの学生探検は、4年間で終わる人が多いようですが、卒業してからも続けていく原動力は、いったいどこからわいてくるのかという感じがする。僕らもそういう風になりたいけれど、なかなか難しい。

藤本 関野さんは、植村直己ほど一般受けしないけど、精神的に言えば、植村さんに匹敵する人だと思う。

司会 その辺、1年生はどのように探検家を選んだのかな。

小倉 やった活動をみて、人間的に好きな人を選びました。

庄山 私は、有名というか、すごいことをやった人を選びました。他に、私は調査の方に興味があるので、民博の梅棹忠夫さんなんか尊敬する人としてあげることができると思います。

並木 藤本さんに1つ質問したいんですが、探検における民族調査活動の真髄というのは、どこにあるんでしょうか？

藤本 僕らは3人で行ったわけやけど、行こうと思った時点で、誰も探検と民族学とのつながりについて考えてなかった。後で、クラブ活動としていろんな形で協力を受けるため、大義名分をはりつけたようなもの。言葉だけとらえたらいかんけど、一般的に言う未開人の調査が自分らの文化を反映するという答を出す前に、彼らを調べることが彼らのためになるという感じを持って行った。結局、帰ってきて思うのは、自分達の尺度で自分達の文化よりも劣っていると考えて現地人を調査するということは、ただ自分が違う文化の人と接するだけなんやね。それに探検・調査という言葉を使うのは、非常におこがましい気持ちになってくる。

並木 ですから未開人という感覚に対して抵抗を感じながらも、調査活動を続けていたんですね。

藤本 10年前と今との違いやけど、今後いわゆる文明人が文明を追い続ける中で、彼らを参考にする風になったらいいけど、軍事的な目的、つまり、侵略という面に使われたらという危惧もある。そう考えたら、僕らがやった資料なんて何の材料にもならんと思うけど、もっと高度な調査活動が行われて、もしそれが利用されたら、何のために自分らがやってきたのかわからん。そういう風に文化人類学が利用されるとしたら非常に間違ったことやね。そう思ったら民族調査というのは絶対したらいかんという考えに帰ってくる。だから、アマゾナスの報告書は、事実を書きとどめるだけで、変に歪曲したことを書かないようにしようというのが3人の結論やった。

並木 探検家が、知らないうちに植民地化とか、そういう目的のために利用されるのは非常に恐い

と思う。学生であれ、社会人であれ、少なくともそれに負担している行為であるなら責任を持つべきだと思います。

藤本 それを突き詰めていったら、何もしたらあかんわけや。着ている物も、持ち物も、彼らの世界にないわけで、それらの存在を知ると、本来ある彼らの文化文明が崩れていくという悪循環になる。ということは、入ることそのものが悪になる。ただ、文明社会にいる人間にとって、そういう人人を知ることは、今後、自分達が現代文明を生きていく上で役に立つやろ。けど、彼らの文明をより長く保っていかうとしたら、極力、彼らの世界に入らんようにするのが人間愛に満ちた行為かな。難しいな……。とって、誰もが知っていることをやっても価値がないし、誰も知らんところに入るのが大事なんやけど、自分自身の悩みはあるなあ。



司会 そうですね。活動を進めていく過程で様々な苦勞がありますが、探検部という組織の中でやることに對して、いろいろ制約が加えられて、本当に自分がやりたいと思っていたことからずれてきたということはなかったですか。組織と個人について誰もが悩む問題ですが……。

藤本 クラブの内部で言われたことによって、自分がやろうとしていることを曲げられたという意識は全くないね。それがクラブの長年の成果として、またクラブに居たからこそ、自分がやろうとしたことにいろんな方法論とかその他のことがプラスされ、計画が脹んでいった。最初は「アマゾンに金魚見に行くんか。」と叱咤激励を受けたけど、それは決して計画を潰そうとするのではなく、より脹ましたろという意識があったんっちゃうか。

杉江 あの当時、趣旨・目的とか技術的にも厳しい言葉もあったけど、「しょうもないからやめとけ。」とは誰も言わない。

小倉 この前、外苑合宿があって、反省会で何のために探検やるんやと話し合った時に、結局、自己満足やという人がようけいて、何か寂し気がしました。けど、下宿に帰った後で、自己満足以外の気持ちもありました。

安川 僕は、自分で行って帰ってきたら自己満足やと思うけど、それ以外、周囲が何を言おうと関係ない。僕は自分自身、自己満足に終わったと思っている。周囲は何思てるか知らんけど、まわりの評価云々と言ってたら何も出来ないと思う。

司会 並木は、今年の夏に三里塚問題の調査をやろうとして、OB・現役の反対意見が多く実現しなかったけど、クラブの枠組みみたいなものを感じたんっちゃうか？

並木 確かに、目に見えない組織の枠組みのようなものを感じました。現在、関大探検部では地理

的探検が主体ですが、他大学の探検部では、アフガン最前線潜入・難民調査等、世間に渦巻くイデオロギーの間であって、苦しみ、そして何かを求める人々とその社会にアプローチをかけた活動もあります。僕も、それに共鳴し、その趣旨に沿った活動を興していきたいと思います。

竹本 しかし、学生らしい活動ということを考えると、イデオロギーの分野に首を突込むのは良くないと思う。

司会 クラブでやるからには最低限の枠組みがあると思います。そこで問題になるのは、各個人別別の探検感を持つ集団として何が探検なんかということなんですが……。

藤本 僕が入った頃は、学園紛争の時で、探検部もその渦中であって、学園が封鎖された時、当時の執行部は、関大として学生として、この学園紛争に、どのように関っていくべきかを真剣に考えたんやね。デモに参加したり過激な行動に走るんか、より身近な探検部の活動をとるんか、どちらをとるか悩んだ末、結局、全員夏合宿に参加して活動を続けた。やはり、関大探検部の部員である以上、その活動を通じて、自分が本当に求めているものとの接点を見つけていくべきやと思う。

並木 僕の場合は、何が何でも三里塚を取り込んでしまおうという考え方や、或いは、僕自身、過去の歴史というものを知らずに考えるうちに常識の枠を広げ、自分の考えをほり込もうと……。

藤本 別に、保守的な考えで言うんじゃないけれど、あまり枠を広げすぎたら本当は何やという輪郭が消えてしまうんやね。その辺がクラブとしてやるべき行動と、ちょっとはずれた行動との接点を見出す大きな問題になるんやけど、何もかもひっくるめてしまうと枠が全くなく、ぼけてしまう。だから、全部ひっくるめてしまうのは良くないと思う。

大日方 東京の方の大学は、かなり枠を広げていて何か企画があれば、改めて探検とは何ぞやと議論をすることもなく、個人の欲求を大部分受け入れているようです。そして、僕が感じたところによれば、何でも自由にできることによって行動が活発になりその中からいろいろ生まれてきているようです。伝統は大切だと思いますが、関大のやり方というのを考えてみる必要があると思います。時代が時代だけに……。(笑)

杉江 枠というのは言葉をかえたら雰囲気だと僕は思う。僕らの時もそうやったけどわりとやりたいうことをやっていた。で、それが後で探検かどうか誰にもわからんと思うしね。長年の伝統の雰囲気もあるけど、それを逸脱しているかというのわからん。多少、はずれていても何年か先に、関大探検部の持っている雰囲気にプラスの要素として働くのところがうかな。だけど、いろいろ考える前に探検部というのは動くことや、僕自身、探検云々を論ずる前にとにかくやってみようと考えていたし、クラブとしてもそうやったと思う。その辺が関大探検部のええところ言うかね。



司会 探検についてあれこれ言う前に、結局は、自分の計画に対する意志、情熱の強さだと思います。今日は、偶然、アンケートで現役部員が選んだ関大探検ベスト3の活動に参加されたOBがいられていますが、発想段階から終了まで、何がそこまで計画を押し進めたのか話してもらえませんか？。

安川 ほんまに偶然か。(笑)一番続いた理由は意地やと思うね。人間性から出てくる意地というか。さっきの話にあったけど、OBからいろいろ言われることが逆に反発を覚えて、とにかくやってみようという感じ。また、植村さんがよう言うけど、初めにばっと大きなこと言うて自分をがんじがらめにして、やらなしゃあないようにしてしまうという面もあった。企画云々という話もあったけど、OBにも協力体制が出てたもんで、後半なんか今考えると順風満帆やった。僕自身その企画にのめり込んでいたので、探検とは何かということについて悩んでよかった。かえって他の奴が悩んどった。

清水 僕は、今、ニューギニアのことを考えてるんですけど、安川さんがおっしゃるように、探検とは何かについて考える機会がないんですね。ただ、自分のやっている行為が探検かと尋ねられたら、自信を持って探検だと……。イメージの中のちょうど中心にあるような気がします。一般の人は探検を殆ど結果として評しているし、本人がほんまに探検かどうかという意志がなくやっても探検というのをとらえていると思う。その点でうちのクラブは、やる前にその企画の探検性について問い正している面があって動きにくいかもしれません。

杉江 最初、僕は探検なんて知らなかったけど、教室で隣に座ったある男に誘われたんが洞窟を始めるきっかけやった。その当時、千里洞を終えて

まだ2〜3本洞窟があったわけ。それが千里洞より深いかということではなしに、これをやるのは青海にフィールドを設定した関大探検部やということで4年間続いた。結果的に言えば、僕らは千里洞より深い所に行こうという考えはあまりなく、とにかく青海というものに決着をつけなあかん、と考えていたみたいやね。だから、自分のやっていることの探検性云々ということより、次の洞窟をどないしていったらかという技術的なことしか頭になかった。

安川 杉江さんが入られた時は、千里洞は終わってたんですか。

杉江 うん。千里洞を終わって翌々年やね。洞窟というのは、他のフィールドと違って外から見てもわからんわけで、後で評価されることが多い。僕らの時はフィールドに恵まれとったから、あまり探検云々は言わなかった。他の奴に対しては色々考えて意見を言うし、アドバイスもするけど、まあ、それが学生探検のええとこやと思う。

藤本 僕なんかそんなかっこのええもんと違う。情熱なんて言うのが恥しいくらいで、まして意地なんてなかった。ただ、自分の性格で一度クラブに入ったらやめたくない。やり出したらやらなしゃあないという感じ。資料を集めて勉強しているうちに、自分はこれをやめたら何したらええのかと考えるようになって……。もうやるしかない。

杉江 あきらめですか。(笑)

藤本 それと非常に大きな要素は、最終的に残った3人の中でお互いに引っぱり合い、索制し合って計画を進めていったことやね。

竹本 今、3人の話を聞いていて大学に於けるクラブ活動としての探検はこれでいいと思うね。

研究分野での学術探検、個人的なアドベンチャー探検など探検という言葉は昔からあって、最初から定義づけられているものではないわけや。僕ら

も最初どこか海外へ行きたいと思って探検部を作ったんやから……。けど、過去25年間の活動を振り返ってみると、先ほどの彼らの話にもあるように、なんとなくクラブ活動としての探検というのがある。学園紛争の頃、探検部内に学生運動を持ち込もうとした者も居ったけど、結局は、探検部では目標を達成することができなかった。探検部の活動というのは、探検部でしかできないものやと思うよ。青海の洞窟に入るために自分らでワイヤー梯子を作って開発して行ったことなんか学生探検のいい例やね。

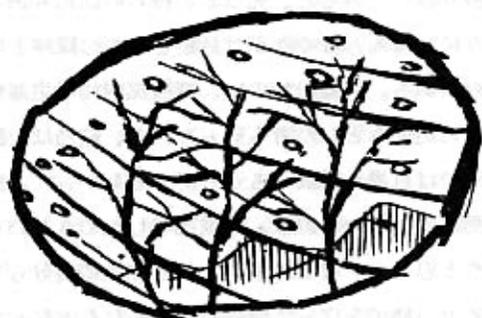
司会 やはり、行動の結果として探検の定義がついてきたらいいようですね。ところで、今後、探検部がやるでっかい計画というのはこんなじゃないかという夢のある話がありましたら何か。

竹本 アンケートの結果にもあったけど、海外の大学の探検部とクラブ単位の交流というのはおもしろい。探検感や活動方法も違うやろけど、お互いにはないものを交換しあう。これは今までなかった前向きな形やし、国際交流が叫ばれる今日において意義のある活動やと思うね。

庄山 全員で、すべてのプロジェクトの特性が生かせるような地域に行ったらいいと思います。

清水 まあ、全員が行くというのは理想やけど、皆の妥協の重なり合いで底の浅いものになる可能性がある。また、あくまで学生側が中心になって専門的な分野は教授を引っぱり出してくるような形もいい。

幸徳 まあ、どういう形であっても、何か大きな甲をやってみると、関大探検部の存在価値が試され、いい刺激になるんとちゃうかなあ。



司会 いろいろ意見が出たようですが、最近のクラブの傾向として、今一つ打ち込んだ計画が少ないということがあげられます。その辺も含めて、先輩がたから現在の探検部にアドバイスがありましたら……。

竹本 クラブ内で何か企画があったら、参加するにもしないにしても一つの参加やから、学生として、また、組織としてチームワークをしっかりと、全員がその計画に興味を持って頭を突込むという姿勢が大切やね。

藤本 やはり、自分がやろうとする湧いてくる情熱というもんを一番大切にしてほしい。下級生なんか今やっていることをまじめにやって、毎日少しの時間でもええから今自分は何をやりたいんかということを考える癖を持つことが大事やね。そうしていけば、自ずから新しいものが出てくると思うよ。先ばかり見て考えるのではなく1日の勉強、技術の練摩を重視していかと地に足がつかない計画になるんやね。

司会 日々の勉強、技術の練摩というのは組織としてやらずに、各自が自主的にやっていく活動のことですか？。

藤本 その辺がクラブとしてやってることやから、中には企画制云々で悩んで、日々の活動どころではない者もおるやろ。そういう時は執行部として全員が参加できるような合宿とかそういう場を作ってやらなあかんし、下級生も参加するのが義務やと思うね。

杉江 何でもいから一つの事にのめり込んで、いろいろ自分がもがいて活動してみたら、自己満足かもしれんけど自信もつくし、世界が広がってくる。1年生なんか頭であれこれ考えても決して世界は広がってこないと思うよ。何かやってみてのめり込みながら考えていけばいいと思う。

司会 まず、行動してみろということですね。

安川 僕は、探検部というのは個人の欲求の固まりの集団であると思う。関大探検部の雰囲気云々という話もあったけど、もし探検部で認められへんかっても自分で本当にやりたかったらやったらええし、で、やった奴に対して僕は拍手を送りたい。要するに自分に帰ってくることやからとことん自分の欲求をつきつめてほしい。ただ、組織に残っている以上は最低限の規則は守らなあかん。個人的、組織的観念と2つ相反する所やけど、その辺は割切ってあくまで自分の欲求をつきつめてほしい。話はかわるけど、ニューギニアの計画はおもしろそうやから是非やってほしいと思ってます。



司会 今、先輩がたから貴重な話を聞いて、最後に、現役の方から一言。

庄山 探検論や組織論についての先輩がたの考え方、物の見方が私達のといろいろ違うので、参考になりました。

小倉 今、クラブには先に探検とは何か……と考える傾向があるんですが、先輩の話聞いて僕のように動いているうちに何かあるという考えでもいいんだなと思いました。

清水 ニューギニアの計画の方を頑張っています。

並木 自分の考え方に対して、時に警告を与えていただき、また、励ましてもらいますます複雑な心境です。

井上 現役が今ぶつかっている問題の解決に非常にヒントになる話をしていただきましてありがとうございます。

大日方 こういう場に参加するといつも感じるんですが、自分の姿勢が喚起され、力が湧いてくるような気がして非常にためになりました。

司会 その通りやと思います。先輩がたの話聞いて、日々の姿勢の大切さを痛感しました。今日は、現役が聞く方にまわったみたいで……座談会のはずだったんですが……。でも、話の内容を現役に伝えることによって、非常に啓発になり、探検部における基本的な姿勢もわかるんじゃないかと思います。どうもお疲れ様でした。

